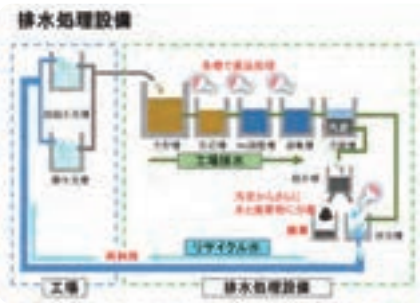


会社ではこんな仕事をしています！



排水処理(工場使用水の管理・処理)

溶融亜鉛めっきの加工には排水処理施設が必要不可欠です。加工の際の排水を浄化して再利用しますが、浄化技術はさらに進歩しており、弊社も新設備建設を控えています。



船舶などへの溶融亜鉛めっき加工

船舶は海水を浴びサビなどの劣化が起こりやすいので、ほとんどの部品に溶融亜鉛めっきを加工して耐食性をあげます。加工過程は鉄骨の場合と同じです。



鉄骨などへの溶融亜鉛めっき加工

溶融亜鉛めっき加工は耐食性、密着性に優れ、コスト的にも素晴らしい技術です。また、“めっきが剥がれる”という言葉もありますが、溶融亜鉛めっきは絶対に剥がれません。



Interview

先輩社員にインタビュー



✔ 仕事で心がけていることは？

多くの取引企業様向けに製品の加工を行うので、取り扱う製品の種類も様々です。製品一つひとつの特徴も異なるため、加工前にはまず、表面加工ができるような仕様になっているか？などの確認作業は念入りにしています。また、製品により最適なめっき条件が異なるため、材質や形状寸法なども細かく確認を行っています。

製造部 製造 2 課
室井 翔さん(写真上) 入社3年目(写真上)

✔ これからの目標は？

現在は、上長が不在の時など、周囲を見て作業が円滑に進むために、声掛けや作業指示をするなど現場監督者として一人前に動けるよう心掛けています。将来的には、製品をより完成度の高いものにするために、加工技術についても上長と同等の知識と技術を身に付けることで、自分の考えのもと、多くの提案ができるようになりたいです。

製造部 製造 2 課
堀 優磨さん(写真上) 入社5年目

Leader's interview

トップリーダーにインタビュー



Q 仕事で一番大切にしていることは？

A 私は野球が好きで、巨人軍のファンです。巨人軍には“巨人軍は紳士たれ”という言葉がありますが、私も社員の模範となる言動を心掛け、また同じように社員にも自分の部下や後輩の模範となる人になって欲しい。互いに尊重しあえるような環境を作ることが大切になっています。

Q どういう社員に担ってほしいですか

A 誰にでも素直に感謝の言葉が伝えられる人。お客様に対してだけでなく、何かをしてもらったり、教えてもらったりした時には上司、部下、先輩後輩関係なく「ありがとうございます」と謙虚に感謝の気持ちを伝えられる人に成長して欲しいと願っています。

Q 業界の未来について教えてください

A 溶融亜鉛めっきは、原材料やエネルギーコスト増加に直面しつつも、建築・土木分野での需要が期待されています。将来的には国土強靱化や復興需要により、まだまだ成長の余地があると同時に、安全な生活、環境保全の観点からも世の中には必要不可欠な業種です。



管理統括部
菅本 慶太さん

大分県明普通科卒、別府大卒、他業種を経験したのち同社入社。製造部、営業部を経て、現在は管理統括部長として総合的な管理を行う。

株式会社 田北電機製作所

住所／大分市下郡工業団地3182-4
TEL／097-569-3677
URL／<https://takita-dnk.co.jp>

- ◆設立／1932年1月
- ◆資本金／2,400万円
- ◆従業員数／48名
- ◆グループ会社／西日本土木(株)
- ◆2026年採用状況／大卒・短大卒・高卒・学歴不問



事業内容

溶融亜鉛めっき加工

入社時に必要な資格

- ◆特になし

入社後に取得可能な資格

- ◆フォークリフト運転免許
- ◆めっき技能士1級
- ◆公害防止管理者(水質)
- ◆大型自動車免許
- ◆衛生管理者など

笑顔と絆を紡ぎ、心豊かな社会を築く

地域に根ざし、最後まで寄り添うサポートを

創業から90年を超える歴史を持つ田北電機製作所の主力事業は時代の移り変わりとともに変化してきた。昭和38年から同社が手がける溶融亜鉛めっきの技術は大分県内では唯一であり、多くの構造建築物などの安全を支えており、その需要は九州だけでなく、北は北海道から南は沖縄にも及ぶ。溶融亜鉛めっき加工とはビルや橋などの建築物に使われている鉄骨の表面に溶融亜鉛めっきを施すことで、腐食やサビを抑え、構造物自体の耐久性を高める加工のこと。「この技術は鉄を錆から守ることを目的としていますが、限りある資源を長持ちさせることで環境保全にも繋がっているのです」と管理統括部の菅本部長は熱弁するが、同社が担う社会貢献度も高い。

しかし、その技術を次世代に受け継ぐためには人材の確保も重要な課題の一つ。「20年後も、企業として成長し生き残るためにも若い人材は欠かせません。当社では働き方改革の一環として、先輩社員が新入社員の不安や疑問解決の手助けをするためのメンター制度を導入しています」と菅本部長。社をあげて目に見えない職場環境を整備し、積み重ねてきた歴史と技術に若い力が加わることで、田北電機製作所は100年企業へと突き進んでいく。